

---

発行所：ユダヤ・アラブ青少年共学共存推進日伊支援会



---

ケレン・ハオール、第7号、2010年6月25日発行

---

イスラエル教育省全国（小中高校）プロジェクト  
「ユダヤ・アラブ共存推進活動」大集会開催

山崎 智昭



（写真：アラブのダンス、「デブカ」を踊る子どもたち。左端がこのダンスをリードする人。）

6月8日、イスラエル中央地区にあるゴーシュ・ハアインの市公会堂で、「ユダヤ・アラブ共学共存のためのクラブ活動」に参加している生徒たち420名が集まり、大集会が開催されました。この集会は、この組織が1年間

---

どう活動してきたかを総括するイベントとして企画されました。会場の収容人員に制限があるため、28校の代表生徒420名だけになりましたが、参加した各校生徒の力強い発表によって、集会は大成功でした。

私たち「ユダヤ・アラブ青少年共学共存推進日伊支援会」は、大集会の内容や主旨に全面的に賛同し、後援団体として参加しました。そこで今回は、後援の経過などを読者の皆様に報告します。

## はじめに

私たちの組織が支援活動を行っているのは、大きく分けると主に次の3団体になります。

- 1 すでに皆様ご存知のハンド・イン・ハンド教育運動。
- 2 「ユダヤ・アラブ共存のための青少年クラブ」。
- 3 「ギバット・ハビバ・ユダヤ・アラブ平和教育センター」。

1 番目に挙げたハンド・イン・ハンド教育運動は、主に世界中のユダヤ人組織とヨーロッパの友好国から大きな支援金を受けています。

2 番目は、イスラエル政府教育省のイニシアチブにより、小中高校において全国的な規模で展開されています。学校のクラブ活動として、ユダヤ側とアラブ側の学校がペアになって行われています。外部からの支援金はありません。当会はこの組織の、イスラエル中央地区の28校が参加している組織と情報交換などを行っています。

3 番目の「ギバット・ハビバ・ユダヤ・アラブ平和教育センター」ですが、この組織もハンド・イン・ハンドと同様に世界中から支援金を受けて活動しています。また、キブツ・アルツィ連合に所属する機関で、経済的にも安定しています。

ギバット・ハビバには、オープン・ユニバーシティー、宿泊施設やシンポジウム開催用の施設も完備しています。当会では、少額ですがこの組織への支援金の予算を組んでいます。この平和教育センターは、昨年60周年祝賀祭を行っており、豊富な歴史、経験、人脈を持っています。私たちはこの組織とも協力関係をうちたてて行くつもりです。

## 私たちの日伊支援会は初の外部後援団体

今回のイベントは当初、イスラエル政府援助資金や、それぞれの学校からの資金援助、そして参加する生徒たちの保護者による個人献金を集めて開催する方向で企画会議が行われました。このイベントのための運営資金は、前述の2組織のような、世界各地からの援助はまだありません。協議の過程で、今回のイベントは予算不足で苦しい運営を迫られているという情勢報告が出

---

てきました。「ユダヤ・アラブ共存推進活動大集会」という夢のある企画も、規模の縮小、あるいは中止か、という事態に追い込まれたのです。

私たちの支援会は、「ユダヤ・アラブ共存のための青少年クラブ」を主催している教育省支部である中央地域から援助要請を受けました。そして、最初の外部支援組織となりました。もちろん、この決定は「ユダヤ・アラブ共存のための青少年クラブ」の関係者に歓迎され、即時に感謝を表明されました。当日の会場でも参加した生徒たちから直接、『支援金ありがとう』の言葉を何回も聞きました。

このイベントは、イスラエル教育省の教育プロジェクトである「ユダヤ・アラブ共存のための青少年クラブ」の活動でもあり、政府関係者や開催地市長、そして大勢の学校長が参列します。当会としては、多くの関係者に当会の存在を知らせる、またとない機会として考えました。イベントでは、当会は光栄なことに後援組織として代表の祝辞を依頼されました。いうまでもなく「ユダヤ・アラブ青少年共学共存推進日伊支援会」の存在と目的を、共学共存関係者にアピールする絶好の機会となりました。

## 日伊支援会は確実に歩んでいる ― 会場から



(写真左：満員の会場、右上：挨拶をするゴーシュ・ハアイン市長モシェ氏、右下：挨拶をする松村)

大集会そのものは、定刻通り午前10時に満員の会場で始まりました。ユダヤとアラブの生徒たちが420名も同じ会場に集まったという事実を、参加者全員が喜びの心で強く感じたと思います。そして次々に舞台に登場する各校代表生徒たちの音楽やダンスは、賑やかで和気あいあいの交流となりました。楽しく平和に満ちた充実した2時間を過ごし、生徒たちの輝く瞳を確かに見ることができました。特にユダヤ・アラブ合同での生徒たちの共学共

---

存の寸劇「スチグマ」と「相互理解」などは、私たちの目指す草の根運動そのものの題材でした。会場からもその都度「共鳴します」という意志を表す



（司会をするスワード先生（左）とエステル先生）

る盛大な拍手喝采が浴びせられました。司会進行役は「ユダヤ・アラブ青少年共学共存推進日伊支援会」発起人の一人である山崎エステルと、彼女の友人でアラブの村のスワード先生の2人で担当しました。両人とも、数年来共学を進める現場の活動をしているため、呼吸もピッタリでした。

各来賓の皆様からの祝辞は『ここに集まっているあなたがたは、共学共存活動の最前線。将来への永久平和への賢明なる歩みの第一歩だ』など、どれもが熱の込められたものでした。なお、私たちの日伊支援会代表、松村光子さんが来賓として素晴らしいスピーチをされました（内容は別掲）。松村さんのヘブライ語の祝辞は、大集会の異色の来賓祝辞という感じで、会場の全員が静かにスピーチに耳を傾けていました。「一燈園児童が寒い中で街頭募金をして集めた支援金を、ベルシェバ・ハンド・イン・ハンド校へ寄付した」というところでは、会場から敬意の大拍手を受けました。

この大集会への参加は、「ユダヤ・アラブ青少年共学共存推進日伊支援会」が確実に歩んでいる証拠です。現場での仲間たちの中に、ゆっくりですが着実に浸透していることを、肌で感じた瞬間でもありました。

イスラエル国内に広がる共学共存の活動の輪を支持し、広げていきたいと思います。今後とも日本の読者の皆様のご理解と、益々の応援をお願いいたします。私たちはこれからもイスラエル国内での支援奉仕活動に、可能な限り時間を割き、邁進していく所存です。（写真：山崎智昭）

\*\*\*\*\*

### 「こんにちは」 - 松村光子の挨拶原稿

「こんにちは」という言葉は日本語で日中に使う挨拶です。「こんにち」の意味は「今日＝きょう」です。その昔、日本民族の大部分は米作に従事する農民でした。農民にとっては天候が最も重要でした。そこで日本人が出会うとお互いに「今日は（どうですか）」と言いました。それから、「今日は

---

良い天気ですね」、あるいは「雨ですね」と天気について話します。その後、通常の会話に入ります。

ここイスラエルでは、あなたがたはお互いに「シャローム」、「サラーム」と挨拶しますね。これは、この地方では常に「平和」が最も重要であったことを示唆しています。

私にとっても「平和」は非常に重要です。私は第2次世界大戦中、父をフィリピンで、叔父を満州の戦場で失いました。私は心の痛みと悲しみで長い間泣き続けました。そこで、子ども時代から「世界平和」を夢みていました。

私は1967年5月22日に22人の若い日本人のグループの一員として、イスラエルに初めて到着しました。そして6月5日に「6日戦争」に遭遇しました。日本大使館から「直ちにイスラエルを離れ、戦争に関係していない近隣諸国に行くよう」助言されました。しかし、私たちはキブツ・ダリアに残ることに決定しました。恐怖で緊張しながらキブツで働きました。防空壕に逃げ込んだその日に、ある家族の一人息子であるキブツの若者が、ジェニンの戦場で戦死したと聞きました。

私は、ユダヤ人でもアラブ人でもありません。私はユダヤ人、アラブ人に対して憎しみを持っていません。私はイスラエルとアラブの両側で戦死した人たちを、私の家族の一員であったかのように感じ、心を痛み悲しく思いました。

私はユダヤ・アラブ間で「共存」を求めるあなたがたの1年間を締めくくるとこの総会に参加できることを嬉しく思います。あなたがたは新しい世代です。ここに2民族の「共存生活」が実現することを期待します。そして将来、中東だけでなく世界の見本になってほしいのです。

私たち日伊支援会、日本の支援者、そして、1905年に日本で最初に創設されたキブツである一燈園が、あなたがたを応援しています。一燈園の子どもたちが、昨年11月末に街頭募金に出ました。1日で約1000ドル集め、そのお金をユダヤ人とアラブ人が一緒に勉強しているベルシェバのハンド・イン・ハンド校に寄付しました。

手に手をとって、「平和」、「サラーム」、「シャローム」に向かって行進しようではありませんか。最後に、1963年に暗殺されたアメリカの大統領 J.F. KENNEDY のことばで、私の挨拶を結びたいと思います。「人類は戦争を絶滅しなければならない。さもなければ人類は戦争によって全滅する」(Mankind must put an end to war, or war will put an end to mankind)。 (原文：ヘブライ語)



## ハンド・イン・ハンド・エルサレム校 父母たちのインタビュー

中島ヤスミン

私は将来、我が娘をエルサレムのハンド・イン・ハンド（Hand in Hand）幼稚園に通園させたいと思っている。私はこの学校を選択した親たちに関心を持った。そこで2009年12月、仕事の合間をぬって、それぞれ宗教の異なる親にインタビューをした。

### HIH 校に通わせて100%満足

タミー・アインシュタイン、ユダヤ人（母親）

#### 子供を通わせた動機は？：

「恐怖心」は無知から来るのです。この国は、いろいろなグループがお互いに背中合わせで住んでいます。でも他のグループについては実はお互いに何も知らない。そして「知らないこと」が他者に対しての恐怖心を生んでいると思います。相手の文化や言葉を知れば、この状態から開放されて恐怖心もなくなると思います。いずれにせよ、私たちは隣人として一緒に住んでいかなければならないのですから、恐怖の中で暮らしていくよりは相互理解の中で暮らせた方が良いでしょう。HIHは真の共存コミュニティだと思います。

#### タミー・アインシュタインのプロフィール

宗教： ユダヤ教徒  
職業： アートセラピスト  
出身地： ニューヨーク。12歳でイスラエルに家族と共に移住  
学歴： 現在博士論文を執筆中  
息子： HIH エルサレム校に在学中。もうすぐ16歳（HIH歴9年）

**実際に子どもを通わせて：**HIH校の子どもたちは互いに尊敬しています。これは貴重です。

最近、イスラエルでも学校における構内暴力が問題になっていますが、HIHでは暴力問題は一切ありません。HIHでは相互に対話が持たれています。例えば昨年のガザ戦争中に、相手の意見を聞くこと、自分の意見を持つことのバランスをよく学んでいました。それは必ずしも合意が必要ということではありません。対話とは相手の考えを知ることだと思うのです。

**将来軍隊に行くにあたって：**息子は、正しい倫理観とモラルを以って行動できると思います。彼は18歳になったらイスラエル国防軍に入隊すると言っています。イスラエル国民の義務としてやらなければならないと考えているの

---

です。HIH 校の経験により、軍人として、正しい倫理観とモラルで行動できる兵士になると思います。HIH の親の一人が、予備役でベツレヘムのチェック・ポイントに勤務していたことがありました。同じ HIH 校の親仲間で、キリスト教徒が仕事で通っていました。お互いにいつも友人として接しました。周囲のアラブ人やユダヤ人兵士に良い模範を示したと思いますよ。

**良い点, 悪い点:** まだまだ、HIH 校は大海の一滴。もっと親たちの努力が必要だと思います。

息子の学年は 1 学年 1 クラスしかありません。社会性を身につけるために、子どもをもっと大きい学校に通わせたいと転校させた親もいました。一人は 3 カ月で HIH 校に戻り、一人は今でも休みやイベントがある時にいつも HIH 校に帰ってきて、行事に参加しています。特に私たちの世代は一緒に学校を作り上げてきたので、親も子どもも本当に一つのコミュニティーを形成しています。このコミュニティーから離れるのは難しいと思います。

確かに、共学共存の理念に疲れて離れていく親たちもいます。家の近所の学校に子どもを通わせていれば、送り迎えの手間やいろいろな親同士の会合に出席する必要もない。それなりの理念を持っていなければ、継続するのは大変だと思います。私自身は子どもを HIH 校に通わせていることに 100% 満足しています。

**周囲の反応は？:** ハンド・イン・ハンド校の子どもたちは二民族の「かけ橋」の役割をしていると思います。

私たちはシナゴークに毎週通っています。そこでユダヤ教を守っている友人が、息子のバル・ミツバ（ユダヤ人の成人式）などに HIH 校のクラスメート（他宗教）も招待した時、普段接する機会がない子どもたちがお互いにとっても興味を示し、質問をいっぱいしていました。

私は開校当初から参加していましたが、その時に、「ユダヤ・アイデンティティーの喪失」を警戒する反対意見がありました。しかし多文化社会イコール自己のアイデンティティーの喪失にはなりません。反対に多文化だからこそ自分のアイデンティティーを考え、自覚する機会が持てると思います。私自身もニューヨークの多民族社会で育ちましたが、常に自分はユダヤ人だと自覚していました。だから、このような心配はナンセンスだと思います。周囲の友人には、私の息子をみて自分の子どもを HIH に通わせなかったことを残念に思っている人もいます。また、この学校の活動がイスラエルに存在する差別主義を変えていくかも知れないと確信しています。

**このような方法が将来、両民族間の平和共存に繋がるか？:** 「平和」という言葉はとても遠くて、今の私たちには手の届かない所にあると思えます。しかし、多くの親たちは今のイスラエルの現状に疑問を持ち、その解決方法を模索して HIH 校に子どもを入学させました。HIH が一滴のしずくとなって、水面に徐々に波紋を広げ、社会に浸透していけたらと願っています。

---

## 「シャニー」多文化合唱団

ゾハル・ダヤン (Zohar Dayan)  
エズレル・アート・センター、渉外係

### 生い立ちと目的

「シャニー」少女合唱団の団員は 13 歳から 18 歳までです。中部ガリラヤ地方の町村出身でユダヤ人とアラブ人から成り、宗教的にはユダヤ教徒、キリスト教徒とイスラム教徒で構成されています。

「Shani」という名前は、ヘブライ語の「シャニーの絆」という熟語にちなんだもので、異なる人種や文化を結びつける精神的な糸を意味します。

この合唱団は 2003 年に結成されました。ユネスコの援助を受けた「ミフネー (Mifne) (注)」プロジェクトであり、指揮者の巨匠 ブービン・メータとイスラエル交響楽団の協力を得て活動しています。

「ミフネー」プロジェクトはイスラエルの「国民 (Leumi) 銀行」と「アラブ - イスラエル銀行」、その他多くの篤志家の援助を受けています。

このプロジェクトの目的は、アラブ人社会にクラシック音楽を根付かせ、アラブ系とイスラエル系学生間に音楽を通して協力関係を促進しようということです。双方の学生たちは、彼らの家族と彼らが住んでいるコミュニティーへの使者となり、もう一つのありうる姿、つまり、宗教の壁などを乗り越えて共に行動する人間になれる、というメッセージを伝達していると私たちは確信しています。

合唱団のメンバーは、プニナ・インバールさんの指揮で、毎週 2 回練習しています。レパートリーはヘブライ語やアラビア語の歌はもちろんのこと、クラシックやフォークソングもあり、どれもがこの合唱団のために特別に編曲されています。

### 2004 年からの公演足跡

2004 年～2008 年までに公演を行った場所は、特にイスラエルの大統領公邸、法王ベネディクト 16 世にご出席いただいたローマのバチカン、エルサレムのモルモン教会などが挙げられます。合唱団はまた、ドイツ、イタリア、アメリカにおける多文化イベントに招待されて公演しました。

2009 年 1 月、「シャニー合唱団」はオランダのアムステルダムとデンマークのコペンハーゲンへ公演ツアーを行いました。合唱団は 1500 人の小学生、老人ホームや癌と戦う子どもたちの前で演奏、その他いろいろな公演会場で

---

歌いました。ツアーの間に合唱団はデンマークテレビ局の第 1 チャンネルで中継され、メディアの絶賛を受けました。ツアーのハイライトは、コペンハーゲンのロイヤル・シアターで 1200 人の観客を前に公演した「地中海ピース・オーケストラ」で、観客の絶大な賞賛を受けました。

2009 年 5 月、合唱団はフランスのベルフォルトで行われた「フィルム (Fimu)」国際音楽祭に参加しました。

2009 年 7 月、「ミフネー」プロジェクト関連の音楽祭で、その創始者である巨匠 ズービン・メータの指揮で公演しました。

2010 年 5 月

- ・ ベルギーにおける演奏— ブリュッセルにある欧州議会で公演。また、ネーアペルト市で行われた「青少年のためのヨーロッパ音楽祭」に参加し、一等賞を受賞しました。
- ・ パリにおける演奏—「ユネスコ」平和賞を受賞した「シュファニー神父合唱団」と共演しました。
- ・ 「シャニー合唱団」は、すべての家族のための特別演奏会で、イスラエル交響楽団と共演することになっています。（訳：千葉大英研 OB 協力）

注：ヘブライ語で、向かう、変える、変革、変動の意味。

---

## シャニー・ガールズとの出会い

中井 靖子(21 才)

ケレンハオール読者の皆さま、はじめまして。このたびご縁がありまして、5 月のベルギーの国際合唱祭でイスラエルのシャニー・ガールズの演奏を聴く機会を得ました。ワイン・レッドの衣装に身を包んだ皆さんが歌いだしたのは、ジョン・レノンの「Imagine」。ソロの女の子が最初の部分を堂々と歌い上げます。でも、耳を澄ますと、歌詞が英語ではありません。——そうです、ヘブライ語とアラビア語、そして英語での合唱だったのです。

私は信じられない衝撃を受けました。「Imagine」とそれを歌うシャニー・ガールズ。今の世情を重ねたくなくても重ねざるを得ず、座席に身を任せ、ただひたすら耳と心を傾けていました。決してメロディーの美しさに頼ることなく、自らの音楽で聴衆に何かを訴えかけようとするシャニー・ガールズなのです。「Imagine」を選んだのは次に歌うイギリスの合唱団への橋渡しの

---

意味も込めたものだった、というのは私の考え過ぎでしょうか。

隣で次の出番を待っていたイギリスの合唱団の皆さんが、少女たちの音楽に心を寄り添わせていた表情が忘れられません。

「You may say I'm a dreamer, but I'm not the only one, I hope someday you'll join us, And the world will live as one.」—「世界がひとつになってほしい」、最後のこの歌詞を歌ったとき、少女たちはみな手をつないでいました。大きな歌声のうねりが会場を包み、それが消えることなく彼女たちの舞台は終わりました。

私は現在、大阪大学に在籍しながらドイツのデュッセルドルフ大学で日本語教育の実習（授業担当及びアシスタント）を行っています。合唱も 10 年近く続けていますが、海外に住んでいっそう、音楽を通じてつながるとはどういうことかをよく考えます。シャニー・ガールズの演奏は、もう一度私にそれを問いかけてきました。

シャニー・ガールズが来日しコンサートを開きたいという願いをうかがいました。今の日本に、ぜひあの歌声を聴かせてほしい…一合唱人として、実現のためにぜひ協力させていただきたいとの思いで一杯です。（デュッセルドルフにて）



### 〈読者の声〉

6 号ありがとうございました。音楽を通してつながっていく、これは本当に素晴らしいことです。シャニー・ガールズの歌が人々の心の壁を越えていきますように。

H I H のアイドさんの文章も良かったです。本音で語られていて、子どもたちの様子がよく分かりました。（東京；小寺 隆幸）

\*\*\*\*\*

6 号の合唱団の取材や父母たちへのインタビュー、簡単なお仕事ではないと感じ入りました。私には、とても身近なことと感ずることができました。

今、世界中が、地震や火山の噴火や気候変動に脅かされています。人間ができることは、互いに戦うことではなく、人と人、あらゆる自然とともに、叡智を集めることではないかと感じています。（東京；田中よりこ）

---

## 日伊支援会に献金してくださった方々のお名前と会計報告

17・06・2010

2008年11月～2010年3月まで、次の方々が献金をしてくださいました。

### 団体（敬称略、アイウエオ順）

一燈園、燈影学園小学生（代表、相 大二郎燈影学園園長）、財団法人光泉林（西田多戈止、一燈園代表）、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会（上杉千郷、平和開発基金運営委員会委員長）、千葉大 SES・OB 有志、ひびきの郷（三苫善八郎、代表取締役）、

団体献金合計 684、000円

### 個人（敬称略、アイウエオ順）

佐山 忠、須之内玲子、鈴木健久／三浦豊子、  
武田篤夫／静子、田中より子、中林多万子、林 信吾、  
宮原節子、匿名希望3名

個人献金合計 199,400円

日本での献金額合計 883,400円

日本からの送金の過程で支払われる銀行などへの手数料 60,865円

イスラエル国内での銀行や為替レートによる手数料 29,000円

日伊支援会献金口座の合計収入金額 793,535円

### 日伊支援会における支出金額明細

弁護士費用 55,000円

ハガール小学校（コンピューター、DVD 購入） 82,000円

ユダヤ・アラブ共学共存大集会 72,600円

支援会事務費（過去3年間の郵便や交通費の合計） 43,000円

支出小計 252,600円

銀行口座残高 540,935円

（銀行口座 現地通貨換算金額表示 22,343 シェケル）

以上、会計経理報告です。

日伊支援会 経理担当 山崎エステル

以上の経理報告に間違いはありません。残金は、近い内にユダヤ・アラブ共学共存を推進している学校や団体に配分予定です。松村光子（日伊支援会代表）

---

## 編集後記

今回は、松村さんと共に共学共存の活動現場に出かけて取材してきました。将来の平和を夢みて輝くユダヤ・アラブの青少年たちの瞳を感じ、着実な活動をしっかり見てきました。これまでの歩みの中では最高の収穫でした。そして、その現場で関係者の皆さんに我々日伊支援会の存在を伝えることができたことは、平和を願う仲間たちが日本にも大勢いるということ、さらに、イスラエルで平和を願い活動する仲間たちのために、心を込めた支援金を集めながら応援しているということを 強烈なメッセージとして伝え得たと確信しています。どうぞ今後とも応援宜しくお願いします。(山崎)

表紙の写真は、「デブカ」を踊るアラブの子どもたちです。今まで見たこのダンスは、男性の踊り手ばかりでした。先頭の人がこのダンスを先導します。写真をよくみると女の子が先導しています。中東地域のアラブ社会にもフェミニズムが存在するように思われます。約30年前、キブツ・ダリアに未婚の法律家であるアラブ女性が講演に見えました。男性に伴われていました。男性は彼女の「護衛」だと言われたのを覚えています。アラブ社会も少しずつ変化しているのを感じます。

今回は、私の母校の「千葉大英研 OB 有志」と、ダリアに滞在したことのある村上さんの協力をいただきました。感謝しています。(松村)

---

## NPO

### ユダヤ・アラブ青少年共学共存推進日伊支援会の目的

私達日本人とユダヤ人は、20世紀に人類史上前例のない最悪の惨事、広島と長崎への原爆投下とユダヤ人大量虐殺を経験した。私達は、ノー・モア・広島、長崎、ノー・モア・ホロコーストを叫び、核兵器や戦争、そして大量虐殺のない真の世界平和と民族の共存共生を希求する。

本支援会は、上記の考えに基づいて、イスラエルにおけるユダヤ人とアラブ人青少年の共同教育推進のために、内外に向けて献金依頼活動を行う。そして、イスラエル国内における二民族の青少年共学共存を推進する団体・組織や施設の共学共存教育活動を支援する。本会の機関誌「ケレン・ハオール」を通し、広く協力を求める。

### ご支援金送り先

\* 読者の提案により、郵便為替口座を設けました。番号は：**ISRAEL POST 21832292**

宜しく願いいたします。

\*小切手の場合は：

Mitsuko Matsumura; Kibbutz Dalia, 19239 Israel, または  
Toshiaki Yamazaki; Kibbutz Gibat HaShirosha, 48800 Israel

\* 銀行送金の場合は、山崎、松村にお問い合わせ下さい。

\* 其他のお問い合わせ先 (E-mail Addresses) :

Mitsuko Matsumura; [mitsuko1941@gmail.com](mailto:mitsuko1941@gmail.com)

Aki Yamazaki; [yamazaki@netvision.net.il](mailto:yamazaki@netvision.net.il)

### ケレン・ハオール、第7号

(ケレン・ハオールはヘブライ語で暗闇の中へ差し込む「一すじの光」。希望を意味する)

発行所：ユダヤ・アラブ青少年共学共存推進日伊支援会

Mitsuko Matsumura, Kibbutz Dalia, 19239, Israel

発行日：2010年6月25日

編集：松村光子、山崎智昭、山崎エステル、中島ヤスミン

校正：佐山宏子（成田）、田村徳章（東京）、村上宏一（埼玉）

題字デザイン：Ms. Danit Rot